

① 研究課題：

データベースを用いた消化管内視鏡治療・関連手技の診療成績の解析

② 実施期間（〇〇年〇〇月〇〇日まで）：

2030	年	12	月	31	日まで
------	---	----	---	----	-----

③ 研究機関：

大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学

④ 主任研究者：

大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授 竹原徹郎

⑤ 研究目的：

現在、内視鏡はあらゆる消化管疾患の診療において重要な役割を果たしています。消化管内視鏡治療にはポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術 (EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)、内視鏡的消化管バルーン拡張術 (EBD)、内視鏡的消化管ステント留置術、内視鏡的消化管止血術、アルゴンプラズマ焼灼術 (APC)、内視鏡的瘻孔閉鎖術などがあります。また、内視鏡を用いた関連手技として、内視鏡的組織採取（通常の生検に加えて、ボーリング生検や粘膜切開生検など）、マーキング（クリップ、点墨など）、胃管やイレウス管の挿入留置、胃瘻造設術 (PEG) などが挙げられます。

本研究では、当施設にてこれまでに行われた消化管内視鏡検査治療・関連手技の診療成績を評価し、その有用性や安全性、さらには今後の課題などを明らかにすることを目的としています。

⑥ 対象：（目標症例数があればそれも含めて書いて下さい）

大阪大学医学部附属病院において2010年1月から2030年12月の期間に消化管内視鏡治療および内視鏡関連手技を施行した症例を対象とします。症例数は、概算で20万例ほどになると見込んでいます。

⑦ 研究方法：

上記対象のうち診療録またはデータベースから症例を抽出し、後ろ向きに情報（IDや生年月日など個人を特定できる項目は除く）を収集します。各治療・関連手技に関して

診療成績（有用性、安全性など）を評価し検討を行います。

⑧ 利用する者の範囲：

大阪大学医学部附属病院において取得された・あるいは取得される予定の診療情報が利用・解析されます。

⑨ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称：

大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 辻井芳樹

⑩ プライバシーの保護：

プライバシー確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で研究解析を行います。また、研究結果を公表する際には、患者さん個人が特定されることはありません。情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象にしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。

⑪ 本研究に関する問い合わせ先：

大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 辻井芳樹
連絡先電話番号：大阪大学消化器内科学（06-6879-3621）